



K-U(キック・ユニオン)
童夢Ⅳ
4月29日●東京・メッセ昭島

昨年11月、今をときめく全日本キックの金沢久幸に敗れたのが最初だった。その後、ムエタイに連敗。そして、4連敗。という悪夢は、佐久間の目前まで迫っていた。勝てない焦りからか、1Rからやや動きが堅く、効果的な攻撃を出せないまま迎えた3R。佐久間をパーサタンが急襲した。スタミナに自信のない在日ムエタイ戦士は、なりふり構わず得意のヒジを振り回してきたのだ。

これまで何人も日本人が犠牲になってきた刃物のようなヒジの前に、思わず後ずさる佐久間。弱気を見せようものなら、たちまち畳み込まれてしまう場面だ。一瞬、ポーカーフエイスに不安が覗く。連敗を脱出するのは容易ではない。勝利を得られなければ、不安感が募り、それは自己不振を導く結果、出口の見えない「迷宮」に佐久間が陥っていたことは、想像に難くない。

しかしこの大ピンチの中で、佐久間は己の力で悪夢を振り払うことに成功する。意を決したようにヒジをかくくぐると、左ローキックで一点集中攻撃。上半身での攻撃を主体とするパーサタンが、右足を引きずり始めるのに、時間はかからなかった。最後は左ローとパンチの雨の中、ついに、切り裂



○ローを効かされながら、ボディブローを返すパーサタン。強烈だったが、これも佐久間はこらえた。

○パーサタンの勝負をかけてきた3R、一時は後退するも、左ローで佐久間は反撃。この攻防の中で、徐々に気色の色が表情を支配していった。



○パーサタンのダウン直前。この後、ガードの下がったところに佐久間の左フックが命中した。

○タオル投入によるTKO負けを喫したパーサタン。鈴木秀明、ソムチャーイ高津に続き、日本人に3度敗れてしまったタイ人に、かつての勢いは、もうない。



大ピンチの中で
佐久間、覚醒す



○明らかに早期決着を狙っていたパーサタン、代名詞であるヒジはもちろん、ゴツンと打ちつけるようなパンチで圧力をかける。

○序盤、佐久間はリーチを活かしたハイを放つも踏み込みが弱い。やや動きも堅い。得意のストレートはついで見られなかった。

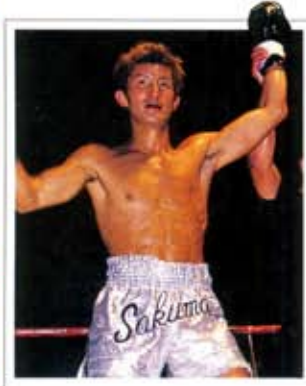


「倒れたのを見てビックリしましたよ。でもホツとしました。その気持ちが一番ですね」(佐久間)

これは、ただ淡々と試合をこなしていたのでは、決して辿り着けなかった安堵感だったはずだ。2カ月という試合間隔の間にタイに渡って試合を敢行するなど、そうした荒療治の中で、佐久間は心のスイッチを強引に切り替えたのだ。迷宮からの脱出劇は最高のエンディングを迎えた。しかもそこで得たのは、フエザー級に佐久間あり。を再び宣言するのに、十分すぎる戦果だった。

(本島)

9カ月ぶりの勝利は、値千金の1勝 切り裂き魔パーサタンを撃沈 佐久間、連敗の迷宮から脱出！



●トリプル・メイン・イベント第2試合／日本・タイ国際戦
58分契約3分5R 第3試合
K-U(キック・ユニオン)主催

○佐久間晋哉 (3R1分43秒、TKO) センゴロウからのタオル投入

●パーサタン・オーエンジャイ(タイ) 1R1分57秒、2R2分29秒

※パーサタンは3Rパンチ連打によるTKO負けを喫した。

○昨年7月以来、実に9カ月ぶりの勝利に酔う佐久間。2、12後衛陣でヒマアイにKOで敗れた後、試合間隔を空けてくれないからとタイに渡り、3月29日に試合を行っていた(KO負け)。1カ月に1試合というハードスケジュールだ。

ラウンド	田	口	杉	内	山	田
1	10	10	10	10	10	10
2	10	10	10	10	10	10